

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

27

2024 MARCH

循環型の生活スタイルの
普及を目指して



理事長
村木正義さん



副理事長
古木美治さん

NPO法人 市民省エネ・節電所 ネットワーク (奈良県内)



情報交換会で活動実績を報告する理事長の村木さん

省エネ・節電でエネルギーを生み出す！ 奈良発の取り組み「市民節電所」

省エネ・節電による新たな取り組み「市民節電所」を提唱し、有効性を実証し続けている「NPO法人 市民省エネ・節電所ネットワーク」。コミュニティの結束で地球温暖化の防止に尽力しています。

使わないエネルギーを生み出す
「節電所」 累積336トンの
CO₂排出量を削減

地球温暖化の要因となる温室効果ガスの排出量実質ゼロをめざす「脱炭素社会」の実現に向けて、近年世界中でさまざまな取り組みが行われています。そんな中、一人一人ができる省エネ・節電を新たな視点で推進し、CO₂の排出量削減をめざす「市民節電所」活動を実施しているのが、「NPO法人 市民省エネ・節電所ネットワーク」です。

「部屋の電気をこまめに消す」「押しっぱなしのコンセントを抜く」など、誰もができる身近な行動である省エネや節電。一方で、継続する難しさや、一人一人の活動が社会から評価されにくいという実情があります。

そこで、同会は「節電等によって消費電力を削減することは、発電所を新しく建設することと同じ価値がある」という考えに基づき、個人の省エネや節電を評価し情報を共有できる仕組みを模索。省エネ・節電に取り組む人が集まったグループを「節電所」として登録し、節電所と事務局が協定を結ぶことで、活動の取りまとめや評価、情報交換を行う「市民節電所「まほろば」事業を実施しています。

2016年に6グループの「節電所」

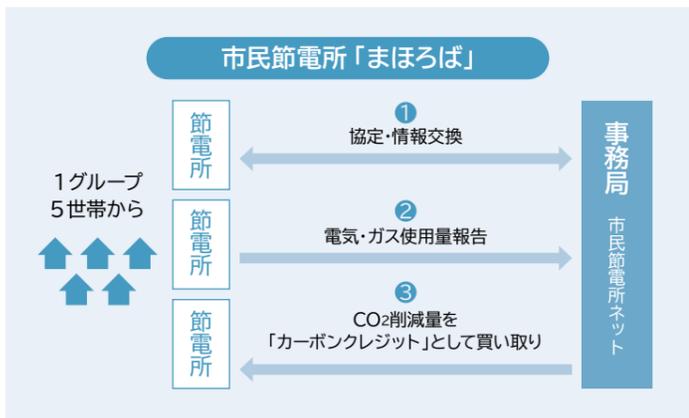
を確立してきた同会。次なる目標は、「市民節電所」の数をさらに増やしていくことだそうです。

「地球温暖化が急ピッチで進む今、将来世代のために、一人一人ができる事を行動に移すことが必要です」と語る村木さん。いつでも、誰でも取り組む事ができる魅力を活かして、県内だけでなく全国に「市民節電所」のネットワークを広げたいと、大きな展望を抱いています。

家庭での消費エネルギーの削減が大きな成果を生み出すことを、その仕組みと実績で発信する同会の皆さん。一人一人の思いを原動力に、地球温暖化防止に寄与する同会の活動は、今後ますます注目を浴びそうです。



力を合わせて節電に取り組む会員の皆さん



が集まり始まった活動。参加者は徐々に増え、現在は15グループ、90世帯以上が活動しています。コロナ禍で在宅時間が増えた2019年6月〜2020年5月の1年を除き、毎年対前年CO₂排出量を減らしています。会の削減量の累積は2023年5月までに約336トンに達しています。

秘訣は「三層のコミュニティ」 活動を支える「市民節電所」の仕組み

同会の活動は、5世帯が集まりグループ(節電所)をつくり、協定を結べば、いつでも参加が可能(左上図参照)。グループは1年間省エネ・節電に取り組む、月に一度、電気・ガスの使用量を事務局に報告します。事務局は各グループのデータを取りまとめCO₂排出量に換算するとともに、省エネ・節電に関する情報を提供。グループが1年間削減できたCO₂排出量は、活動の賛同者や賛同企業等が事務局を介して「カーボנקレジット」として買い取り、グループに還元されています。協定は1年間ですが、更新ができ、多くの節電所が6年〜7年間活動を続け、途中でやめた人はいないそうです。

理事長の村木正義さんは、「家庭という小さなコミュニティが集まって、節電所というグループが生まれ、それが集まって、市民節電所「まほろば」ができています。三層のコミュニティが支え合い、うまく成り立っているから、順調に活動を続けることができた感

じています」とその仕組みを説明。副理事長の古木美治さんは、「この会が大切にしているのは、できる人ができることをやればよいという自主性です。グループから報告を受ける時は『今月もしっかり削減してくれて、ありがとう』と声をかけたり、何気ないコミュニケーションを心がけています」と笑顔で話します。

実際に、「毎月のデータをグループ内で共有することで、節電を意識する生活が続いていると思います」と活動の効果を感じている会員の皆さん。同様に大切な機会になっているのが、年2回開催されるグループ同士が交流できる情報交換会です。一人一人の節電が市民節電所全体でどのような効果を出しているか、グラフなどの目に見える形で共有することでモチベーションを高め合い、時に活動について率直な意見を交わし合うことで、活動をより良いものにしていきます。

同会のフロントランナーとしての取り組み、その継続性と成長性は高く評価され、令和3年度「気候変動アクション環境大臣表彰」を受賞しました。

節電所の動力は一人一人の思い ネットワークの広がりを目指して

誰もができる省エネ・節電に着目し、7年にわたって効果的に取り組む方法



間近で見るバッカー車は大迫力!



「ごみ分別名人」の認定証を授与

「リサイクルマークがどこにあるか見つけられるでしょうか?」「ペットボトルのラベルとキャップを分けてみましょう。『分けて別れる』が分別ですよ」といったように、実際に子どもたちが触って、考えながら授業は進みます。



ごみを減らす「3R運動」について説明する「エコみ〜るず」の皆さん

環境ボランティア「エコみ〜るず」(香芝市)



的場晴夫さん



南浦明子さん

代表



西里久利さん



池木郁子さん

子どもたちが体験して学ぶ環境学習を実施! 環境を守る意識を子どもたちから地域へ

ごみの減量化やリサイクルの普及啓発を長年行っている環境ボランティア「エコみ〜るず」。小学生を対象にした環境学習の出前授業は、環境にやさしい地域づくりを次世代に繋げています。

分別すれば、「ごみ」は「資源」に!

環境省が定める毎年6月の「環境月間」に、香芝市廃棄物対策課と協働して、香芝市内の小学校4年生を対象にした環境学習を実施している環境ボランティア「エコみ〜るず」。地球温暖化が起る原因から、ごみの減量や分別方法、リサイクルの大切さまで、環境について楽しく学べる出前授業を行っています。

取材日は、下田小学校での出前授業の日。体育館に入ってきた子どもたちは、前方の机に広げられた「ごみの山」に興味津々です。

「これぞくんぶ、ごみじゃないんですよ。リサイクルできるんですよ」と話すのは、代表の南浦明子さん。ごみを分別せずに捨てると、埋め立て地がすぐにごみでいっぱいになってしまうことを伝え、実際に香芝市世帯に配布されている「ごみカレンダー」を用いて、13品目のごみの分別方法とその行方について説明していきます。「大切なのは燃やすごみを減らすこと」という南浦さんの言葉に、ノートをとる子どもたちの様子は真剣そのものです。

「目で見て、体験して、印象に残る授業」を大切にしている同会。続く「ごみの分別体験」では、子どもたち一人一人にペットボトル、紙パック、ティッシュボックスが配られました。

的場晴夫さん。「環境活動は、すぐに結果が出るようなものではありません。ごみの減量化や分別方法についても、子どもたちが少しでも意識して行動してくれたら十分という気持ちで伝えています。子どもが心がけるようになれば大人も自然と気を遣うようになる。子どもから大人へ、大人から地域全体へ、徐々に環境問題に対する意識が高まっていけばうれしいです」と思いを語ります。的場さんと同様に長年活動を行ってきた西里久利さんは「出前授業を続ける中で、授業後に御礼の手紙をもらったたり、5・6年生になった子たちが授業を覚えていて、学校で声をかけてくれることもあり、本当にうれしいです」とこやかに話します。

今後の目標は、「出前授業を続けて、住みやすい環境を次世代につなぐこと」と口をそろえるメンバーの皆さん。その想いは出前授業を通して、しっかりと地域の子どもたちに伝わっています。

同会が結成したのは、平成7年。生活者の視点でまちづくりへの参画をめざすための学習・啓発活動を行う団体「かしば女性会議」が、香芝市から「協働して環境問題に取り組んでほしい」という要請を受けて結成しました。当初の主な活動は、香芝市の広報紙に掲載する「環境をテーマにした記事」の制作。紙面づくりのための勉強会を行ったり、リサイクル工場に取材に行ったりすることで、環境に関する知識を深

今の子どもたちに何を伝えるか 時代に合わせて内容を変える出前授業

「決められた通りに分別すればごみは資源になります。家族にも教えてあげてくださいね」とメンバーの一人、池木郁子さんが締めくくり、子どもたちに「ごみ分別名人」の認定証を授与。環境のために今日からできることを学んだ子どもたちの表情は、誇らしげに輝いていました。

伝えていくことができました。その後、香芝市が行っていた環境学習の出前授業に講師として参加したことをきっかけに、平成20年から香芝市と協働して出前授業を行うように、「資源ごみを再資源化するまでの流れや食品ロスの問題など、

伝えたいことはたくさんあります。時代や環境が変化する中で、今の子どもたちに、何をどのように伝えるかは毎年悩みますが、限られた時間で子どもたちの印象に残るようにと題材を絞り、今は『燃やすごみを減らそう』紙類はリサイクルへ』という内容を中心に授業を行っています」と池木さん。

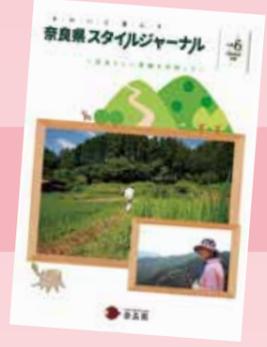
出前授業を始めて、今年で16年目。ほかにも、香芝市のリユースイベントの運営に参画し、リユース促進活動も行っています。これらの活動が評価され、令和5年度に環境大臣から「環境保全功労者表彰」を受賞しました。

環境活動は地道にコツコツと 「環境を大切にしたい」を次世代に

出前授業では、子どもたちと積極的にコミュニケーションを取りながら、明るい雰囲気をつくっていたメンバー



スタート
2017.8



表紙
リニューアル
2020.3



「ごあいさつ」

平素より、きれいな奈良県づくりにご支援・ご協力を賜り、ありがとうございます。

さて、2017年8月から6年間、皆さまにご愛読いただきました「きれいに暮らす奈良県スタイルジャーナル」は、本号第27号をもって終刊を迎えることになりました。

「きれいに暮らす奈良県スタイルジャーナル」は、「誰もが安心して快適に暮らすことのできる奈良県」の実現に向けて、県民の皆さまの実践の場を広げ、活動を後押しすることを目指し、「大和川のきれいな化」「奈良らしい景観づくり」「循環型の生活スタイル」の三つのテーマに基づいて、地元団体の皆さまや、企業・行政等関係者様の、多様で実践的な活動をご紹介してきました。これまでご紹介させていただいた実践活動団

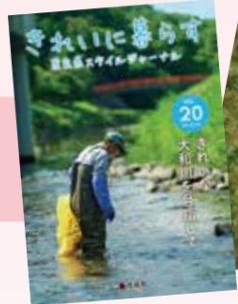
体の数は、のべ103団体となります。その1つ1つが「きれいな奈良県づくり」の推進において、かけがえない大切な活動であり、本紙が少しでも地域で活躍されている方々の活動の励みや、足がかりとなっていましたら幸いです。

「きれいに暮らす奈良県スタイルジャーナル」は、これにて終刊となりますが、今後も、皆さまの実践活動が更なる躍進を遂げ、未来に向けて、奈良の美しくきれいな景観・環境を次世代に繋げていく一助となれますよう、新たな形を模索してまいります。

これまでのご支援・ご愛読に、心より感謝申し上げますとともに、「もつときれいな奈良県」づくりに引き続きご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「ご愛読ありがとうございました！」

奈良県庁
ジャーナルコンテスト
最高評価



最終号！
2024.3

..... みんなで取り組む脱炭素アクション

家庭でできる省エネの取り組み例

暖房の設定温度は20℃を目安に

効果

年間で電気53.08kWhの省エネ
CO₂削減量 25.9kg

※外気温度6℃の時、エアコン(2.2kW)の暖房設定温度を21℃から20℃に設定した場合(使用時間:9時間/日)

→ 約1,650円お得



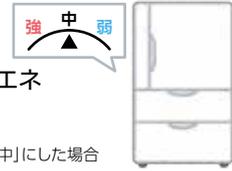
冷蔵庫の設定温度を適切に

効果

年間で電気61.72kWhの省エネ
CO₂削減量 30.1kg

※周囲温度22℃で、設定温度を「強」から「中」にした場合

→ 約1,910円お得



お風呂のシャワーは不必要に流したままにしない

効果

年間でガス12.78m³の省エネ
CO₂削減量 28.7kg

※45℃のお湯を流す時間を1分間短縮した場合

→ 約3,210円お得



照明をLEDランプに取り替え

効果

年間で電気90kWhの省エネ
CO₂削減量 43.9kg

※54Wの白熱電球から9Wの電球型LEDランプに交換した場合

→ 約2,790円お得



(出所:「無理のない省エネ節約」経済産業省資源エネルギー庁)

「まほろばエコスタイル ~ winter ~」

実施期間 令和5年12月1日~令和6年3月31日

市町村、事業所と連携し、「奈良の省エネスタイル」として、夏期の「まほろばエコスタイル」に引き続き、冬期にも省エネに取り組んでいます。

令和5年度 きれいな奈良県づくり功労賞受賞者が決定!

奈良ならではの美しい景観・環境を次世代に繋ぐ実践活動を促進し、多様な主体による全県的・継続的な県民運動を誘発・普及していくため、令和6年1月29日、きれいな奈良県づくりに貢献している以下の団体等に対して、推進協議会会長の山下真知事から表彰がありました。

受賞者一覧(13団体、敬称略)

【川のきれい化部門 (1団体)】

クリーンリバー飛鳥

【景観づくり部門 (4団体)】

斑鳩ユネスコ協会 忍阪区自治会

五井町自治会 大和ハウス工業株式会社

【奈良らしい良好な景観を形成する屋外広告物 (3作品)】

《沿道部門》

モンベル アウトドアヴィレッジ奈良店: (株)ベルカディア、(株)ネイチャエンタープライズ、(株)英進

《商業地・駅周辺部門》

MENYA MOKUMOKU: MENYA MOKUMOKU、(株)ビーライフ 一級建築士事務所 代表取締役 山下淳哉

《一般地域部門、みんなでいいね!なら部門》

梅乃宿酒造株式会社: 梅乃宿酒造(株)、(株)福本設計 代表取締役社長 西峯隆司、(株)奥村組

